

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月23日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22730621

研究課題名（和文） 学校間接続関係の形成と近代教育政策の地方における受容過程に関する実証的研究

研究課題名（英文） Empirical study on formation of school articulation on receptor process of the modern educational policy.

研究代表者

小宮山 道夫 (KOMIYAMA MICHIO)

広島大学・文書館・准教授

研究者番号：60314720

研究成果の概要（和文）：九州各県の資料調査に基づき、各尋常中学校の教育実態、第五高等学校との接続関係などが明らかとなった。各県では県立尋常中学校を地域のモデル校として強化するべく選択と集中に努めた。集中すべきは中学生の学力の底上げであり、その前提は英語を中心とする語学力であった。特に第五区域の場合、森文政下に示された構想に共鳴し、制度の枠内で最大限九州に有意義な中等教育改革を志していたことが分かった。

研究成果の概要（英文）：Based on the survey data of Kyushu each prefecture, The educational realities of a normal each junior high school and the connection relationship with the fifth higher junior high school became clear. It tried to select and to concentrate in each prefecture to strengthen a prefectural normal junior high school as a model school in the region. What had to concentrate is raising the bottom of junior high school student's scholastic attainments, and the assignment was a language ability that centered on English. Especially, it has been understood for the fifth district to resonate to the plan shown in Mori-Bunsei-Ki, and to have aimed at a significant secondary education reform in maximum Kyushu within the limit of the system.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：①教育史、②教育水準

1. 研究開始当初の背景

平成 20～21 年度に日本学術振興会・科学研究費補助金「1880 年代教育政策の動向と第五高等中学校の実態に関する研究」(若手研究 (B) 課題番号 20730501) を受け、第五高等中学校について五高文書を活用した研究を行い、高等中学校の政策的意図に対する第五区域における受容の実態と、第五高等中学校入学者と九州各県の尋常中学校との生徒数分析を基調とした統計的な接続関係を明らかにした。このため、その数字の背景となる各尋常中学校の教育水準と、第五高等中学校との具体的な接続関係を明らかにする課題が生じていた。

2. 研究の目的

1886(明治 19)年から 1894(明治 27)に存在した高等中学校創設の教育政策的意図および近代教育制度史上の役割に着目し、第五高等中学校(第五高等学校の前身)を事例に、近年公開が進み始めた熊本大学五高記念館所蔵の五高関係史料(以下、五高文書)および九州各地に散在する尋常中学校関係文書を用い、教育内容の分析と生徒の修学実態分析を通じて、従来明らかにされてこなかった尋常中学校との接続関係(アーティキュレーション)の形成過程、学校水準の整備過程を明らかにし、教育政策の地方における受容過程について実証的に考察することである。

3. 研究の方法

研究目的に沿って、これまで体系的整理がなされてこなかったために活用されることのなかった教務関係資料、入試問題および定期試験関係資料、カリキュラム編成に関する資料をもとに、第五高等中学校とそこに人材を供給した九州各県の尋常中学校について、

それぞれの教育水準を明らかにすることを主軸とした。

そのために第五高等中学校を受験した生徒の出身学校に関する史料を各県で渉猟し、五高文書との比較考察、生徒動態との関連を精査することを基本方針とした。

具体的な資料調査活動としては、福岡県調査(福岡尋常中学校・修猷館・明善校・豊津尋常中学校関係資料の調査)、佐賀県調査(佐賀尋常中学校関係資料の調査)、長崎県調査(長崎尋常中学校・大村尋常中学校・平戸猷興館関係資料の調査)、宮崎県調査(宮崎尋常中学校関係資料の調査)、大分県調査(大分県尋常中学校関係資料の調査)、鹿児島県調査(鹿児島高等中学校造士館関係資料の調査)を計画した。

4. 研究成果

生徒現員における府県別分布をもとに、第五区域内各県の輩出率や区域内外の生徒比率に着目すれば、次のようなことが分かった。まず第五区域内での各県の生徒輩出率は、1888 年度こそ熊本県が 69.2%と突出していたものの、毎年 10%ほど割合を減じ、1893 年度には熊本県 34.1%、福岡県 26.5%、佐賀県 13.5%、長崎県 12.0%、大分県 7.1%、鹿児島県 5.6%、宮崎県 1.3%の比率となり、熊本の第五高等中学校という位置づけから、第五区域の高等中学校へと定着しはじめていることが分かる。

また、級別の入学者数を調べると、第五高等中学校も他校の例に漏れず、補充科入学者が総入学者数の半数以上を占めていたことが明らかであった。創設初年度は最下級の予科三級と予科三級にも及ばない臨時措置の仮入学しか存在せず、創立 5 年間は最下級の補充科第二級が入学者の主流であったこと

が分かる。

生徒の経歴から分析すると、尋常中学校卒業者を含み尋常中学校での就学経験のある生徒が入学者全体の42.3%を占め、私立諸種学校が50.7%を占めていることが分かる。さらに本科への入学状況に注目すれば、本科入学者5人はいずれも尋常中学校卒業生である。尋常中学校での就学経験がある生徒のうちでも尋常中学校卒業生が本科への直接入学に関して、明らかに優位に立っていることが分かる。その一方で尋常中学校未卒業、すなわち尋常中学校に入学した経験はあるものの中退または編入をした者は、仮入学や補充二級への入学が多く、他の経歴と比べて特段の優位性は読み取ることができない。また私立諸種学校の関係者が補充科生徒の重要な供給源となっていることが確認できた。

第五高等学校への無試験編入者を多く輩出した尋常中学校について、例えば福岡県の事例を見ると、その特徴には次の2点を見出せた。一つは鞏固な財政基盤であり、各校は学校の維持に旧藩主からの多大な寄付があり、地方税支弁が各府県1校に限られた中学校令下においても財政が維持され、奨学支援体制や強固な財政基盤を確立している府県管理中学校であった点。もう一つは英語教育の内容である。特に豊津と修猷館に比して明善校には編入先に若干の違いがあり、その差は英語教師の質によるものと考えられた。

成果の詳細は報告書に譲るが、本助成による九州各県の資料調査に基づき、尋常中学校再編の状況と尋常中学校に対する地域での評価、尋常中学校の教育の実態、第五高等学校との接続関係などが、断片的とはいえ明らかとなった。

第五区域の場合には、他の区域と異なり、九州各県は中学校令下の中等教育について、森文政下に示された構想に共鳴し、制度の枠

内で最大限九州に有意義な中等教育改革を志していたことが推察できるということも大きな収穫である

その結果、五高文書の分析により明らかになり始めた高等中学校の制度および教育内容の実態は、各県の資料を複合的に用いることによって事実関係の補完や検証が可能である事が本研究により明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

1. 小宮山道夫、九州東部からの第五高等中学校進学に関する考察—宮崎県の事例—、教育学研究紀要(CD-ROM版)、査読無、第58巻、2012年、141-145頁
2. 小宮山道夫、九州北部からの第五高等中学校進学に関する考察—(2)福岡県の事例—、教育学研究紀要(CD-ROM版)、査読無、第57巻、2011年、434-439頁
3. 小宮山道夫、高等中学校と尋常中学校との接続関係に関する研究—第五高等学校における入退学実態の分析—、一八八〇年代教育史研究年報、査読無、第3号、2011年、61-87頁
4. 小宮山道夫、九州北部からの第五高等中学校進学に関する考察—(1)長崎県の事例—、教育学研究紀要(CD-ROM版)、査読無、第56巻、2010年、244-249頁

[学会発表] (計7件)

1. 小宮山道夫、九州東部からの第五高等中学校進学に関する考察—宮崎県の事例—、中国四国教育学会第64回大会、2012年11月10日、山口大学
2. 小宮山道夫、宮崎・大分・千葉調査および

年報投稿論文について、1880年代教育史研究会 2012年度第1回東京大会、2012年6月23日東京都杉並区高円寺

3. 小宮山道夫、九州北部からの第五高等学校進学に関する考察—(2)福岡県の事例—、中国四国教育学会第63回大会、2011年11月20日、広島大学

4. 小宮山道夫、第五高等学校の修学実態と社会的機能に関する研究、1880年代教育史研究会 2011年度第1回東京大会、2011年6月5日、東京都杉並区高円寺

5. 小宮山道夫、みやこ町歴史民俗博物館（寄託） 小笠原文庫内 豊津（尋常）中学校関係資料、1880年代教育史研究会 2010年度第3回東京大会、2011年2月20日、東京都杉並区高円寺

6. 小宮山道夫、九州北部からの第五高等学校進学に関する考察、中国四国教育学会第62回大会、2010年11月20日、香川大学

7. 小宮山道夫、第五高等学校第一回入学試験及第者の存在、1880年代教育史研究会 2010年度第1回東京大会、2010年7月11日、東京都杉並区高円寺

〔図書〕（計1件）

小宮山道夫、『学校間接続関係の形成と近代教育政策の地方における受容過程に関する実証的研究（課題番号22730621）研究成果報告書』、2013年、62頁

〔その他〕

ホームページ等

1880年代教育史研究会

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/1880/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小宮山 道夫 (KOMIYAMA MICHIO)

広島大学・文書館・准教授

研究者番号：60314720

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：